

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	大学院大学の設置								
フリガナ設置者	シズオカケン 静岡県（令和3年4月を目途に公立大学法人を設立し運営を行う予定）								
フリガナ大学の名称	シズオカシャカイケンコウイガクダイガクインダイガク 静岡社会健康医学大学院大学 (Shizuoka Graduate University of Public Health)								
大学本部の位置	静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番2号								
大学の目的	健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を中心とした学術の理論及び応用を教授・研究し、研究課題の科学的な分析により、健康寿命延伸に貢献する人材を養成し、もって地域社会に貢献することを目的とする。								
新設学部等の目的	「社会健康医学」の研究を長期かつ継続的に推進し、研究の成果を地域社会に分かりやすい形で還元するため、社会健康医学研究や健康寿命の延伸に向けた取組の担い手となる高度の専門的人材を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 該当なし  14条特例の実施
	社会健康医学研究科 [Graduate School of Public Health]	年	人	年次人	人	修士（社会健康医学） [Master of Public Health]	第1年次 年月	静岡県静岡市葵区北安東4丁目27番1号、2号	
	社会健康医学専攻 [School of Public Health]	2	10	—	20	令和3年4月 第1年次			
	計		10	—	20				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	社会健康医学研究科 社会健康医学専攻	講義	演習	実験・実習	計	42単位			
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
	新設分	社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 (修士課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
		計	11 (10)	6 (5)	4 (4)	— (—)	21 (19)	— (—)	16 (16)
	既設分	該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
	合計		11 (10)	6 (5)	4 (4)	— (—)	21 (19)	— (—)	— (—)
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任		計		
	事務職員	16 (16)	2 (2)		18 (18)		人		
	技術職員	2 (1)	— (—)		2 (1)		人		
	図書館専門職員	1 (1)	— (—)		1 (1)		人		
	その他の職員	— (—)	— (—)		— (—)		人		
	計		19 (18)	2 (2)		21 (20)		人	

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	10,099.71 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	10,099.71 m <sup>2</sup>					
	運 動 場 用 地	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>					
	小 計	10,099.71 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	10,099.71 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	1,642.18 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	1,642.18 m <sup>2</sup>					
合 計	11,741.89 m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	— m <sup>2</sup>	11,741.89 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	【開学初年度】 静岡県立総合病院 リサーチサポートセンター 共用面積:2,225m <sup>2</sup> 共用期間:1年				
		9,238 m <sup>2</sup> ( 3,563 m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( 2,225. m <sup>2</sup> )	— m <sup>2</sup> ( — m <sup>2</sup> )	9,238 m <sup>2</sup> ( 5,788 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設					
	4室	6室	— 室	— 室 (補助職員一人)	— 室 (補助職員一人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		社会健康医学研究科 社会健康医学専攻		24 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点			
	社会健康医学研究科 社会健康医学専攻	1,200 [360] (1,000 [300])	4,518 [3,030] (4,518 [3,030])	4,518 [3,030] (4,518 [3,030])	0 ( 0)	0 ( 0)	0 ( 0)			
	計	1,200 [360] (1,000 [300])	4,518 [3,030] (4,518 [3,030])	4,518 [3,030] (4,518 [3,030])	0 ( 0)	0 ( 0)	0 ( 0)			
図 書 館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数						
		275.50 m <sup>2</sup>	24席	30,000冊						
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		— m <sup>2</sup>	該当なし							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には、電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。
		教員1人当り研究費等		971千円	971千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		5,000千円	5,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	10,000千円	30,000千円	30,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	100,000千円	200,000千円	10,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	県内677千円 県外903千円	536千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			授業料、入学金、入学検定料、その他特定財源により維持運営し、不足する部分については、静岡県からの運営費交付金を充当する。							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	静岡県立農林環境専門職大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	生産環境経営学部	4年	24人	—	96人	農林業学士（専門職）	1.13倍	令和2年度	静岡県磐田市富丘678-1	
短期大学部	2年	100人	—	200人	農林業短期大学士（専門職）	0.77倍	令和2年度	静岡県磐田市富丘678-1		
附属施設の概要		該当なし								

教育課程等の概要															
(社会健康医学研究科 社会健康医学専攻 修士課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	社会健康医学概論	1前	2			○			6					兼2	オムニバス ※演習
	公衆衛生危機管理論	1後		2		○			1	2				兼1	オムニバス 共同（一部） ※演習
	基礎医学講座	1前		1		○			2						オムニバス
	高齢者ケア概論	1前	1			○			1	1				兼1	オムニバス
	公的統計活用法	1後		1		○				1					※演習
	文献検索法・文献評価法	1前	1			○					1				※演習
	プレゼンテーション・ライティングスキル	1前	1			○				1	1				オムニバス ※演習
	小計（7科目）	—	5	4	0	—			7	5	1	0	0	兼4	—
疫学領域	疫学概論	1前	1			○			1	1					オムニバス 共同（一部）
	疫学研究・臨床研究特論	1後		1			○		1						
	臨床研究概論	1前	1			○			1	1					オムニバス
	疫学・ゲノム疫学特論	1後		1		○			3					兼1	オムニバス
	小計（4科目）	—	2	2	0	—			4	1	0	0	0	兼1	—
医療統計学領域	医療統計学概論	1前	2			○				1	1				オムニバス 共同（一部） ※演習
	医療統計学特論	1後		2		○				1	1				オムニバス 共同（一部） ※演習
	臨床試験解析学	2前		1		○				1	1				オムニバス 共同（一部） ※演習
	観察研究解析学	2前		1		○				1	1				オムニバス 共同（一部） ※演習
	小計（4科目）	—	2	4	0	—			0	1	1	0	0	兼0	—
公衆衛生学領域	環境健康科学・産業衛生学概論	1前	2			○				1				兼1	オムニバス
	環境健康科学・産業衛生学特論	1後		1			○			1				兼1	オムニバス ※講義
	生活習慣病（生活習慣・遺伝子・環境）	1後		1		○			3	1					オムニバス
	小計（3科目）	—	2	2	0	—			3	2	0	0	0	兼2	—
コミュニケーション・ヘルス領域	健康情報学	1後		1		○			1	1				兼1	オムニバス ※演習
	ヘルスコミュニケーション概論	1前	1			○			1						
	ヘルスコミュニケーション特論	2前		1		○				1					※演習
	行動医科学	1前	1			○			1	1					オムニバス
	健康医療社会学	1後		2		○			1						※演習
	小計（5科目）	—	2	4	0	—			2	2	0	0	0	兼1	—
健康管理・政策学領域	健康・医療ビッグデータ概論	1前	1			○			1					兼5	オムニバス 共同（一部）
	健康・医療ビッグデータ特論	2前		1			○			1	1				オムニバス 共同（一部） ※講義
	健康政策・医療経済学概論	1前	1			○			1					兼1	オムニバス
	健康政策・医療経済学特論	2前		1		○			1					兼1	オムニバス
	社会健康医学倫理概論	1前	1			○			1		1			兼1	オムニバス 共同（一部）
	社会健康医学倫理特論	2前		1			○		1		1			兼1	オムニバス 共同（一部）
	小計（6科目）	—	3	3	0	—			2	1	2	0	0	兼7	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
ゲノム医学領域	医科遺伝学概論	1前	1			○			3					兼1	オムニバス
	医科遺伝学特論	1後		1		○			3					兼1	オムニバス
	遺伝カウンセリング	1後		1		○			1						
	遺伝カウンセリング実習	2前		1				○	1						
	ゲノム医学（疾患と遺伝子）	2前		1		○			2						オムニバス
	小計（5科目）	—	1	4	0	—			4	0	0	0	0	兼1	—
発展科目	フィールド実習	2前		1				○	2	1					オムニバス
	死生学	2前		1		○			1						
	社会健康医学における質的研究法	1後		1		○			1	1					オムニバス 共同（一部） ※演習
	社会健康医学における混合研究法	2前		1		○					1				※演習
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論	2前		1		○				1					※演習
	医療・ケア組織論	2前		1		○			1	1					オムニバス
	高齢者ケア特論	2前		1		○				1				兼1	オムニバス
	高齢者運動・リハビリテーション論	2前		1		○				1					
	聴覚コミュニケーション学概論	1後			1	○			1					兼1	オムニバス
	聴覚コミュニケーション学特論	1後			1	○			1					兼1	オムニバス
	小児聴覚評価法	2前			1	○			1					兼1	オムニバス ※演習
	脳の発達と聴覚	2前			1	○			1		1				オムニバス
	小児難聴マネジメント	2前			1	○			1					兼1	オムニバス
	老年オーディオロジー	2前			1	○								兼1	※演習
小計（14科目）	—	0	8	6	—			4	3	3	0	0	兼3	—	
特別研究	修士論文	1後～2		8				○	10	6	3				
	課題研究	1後～2		4				○	10	6	3				
	小計（2科目）	—	0	12	0	—			10	6	3	0	0	兼0	—
合計（50科目）		—	17	43	6	—			11	6	4	0	0	兼16	—
学位又は称号	修士（社会健康医学）			学位又は学科の分野			保健衛生学関係（看護学関係及びリハビリテーション関係を除く）								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
①以下のとおり42単位以上を修得すること。 ・修士論文選択者：必修科目17単位、特別研究（修士論文）8単位、その他選択科目から17単位以上 ・課題研究選択者：必修科目17単位、特別研究（課題研究）4単位、その他選択科目から21単位以上 ②原則として2年以上在学し、所定の単位数を修得するとともに、必要な研究指導を受け、修士論文もしくは課題研究の審査に合格すること。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

授 業 科 目 の 概 要			
（社会健康医学研究科 社会健康医学専攻）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	社会健康医学概論	<p>予防医学や先制医療の視点を取り入れ、社会健康医学に関するテーマについて、各分野の研究者による講義を行うとともに、研究論文や事例を用いた演習を行う。            （オムニバス方式／全15回）            （7 小島原典子／6回）ライフスタイルと健康に関して学生による反転授業を行い、後半は研究論文、事例を紹介しながら討論で理解を深める。            （1 宮地良樹／2回）健康の定義、健康を取り巻く国及び地方の現況、静岡県の特性について講義し、地域課題について討論を行う。            （23 中山健夫／1回）社会健康医学上の課題を概観し、ライフコースを通じた予防、医療、ケアの課題と可能性を考える。            （9 栗山長門／2回）ライフスタイルについて、健康を阻害する要因及び身体にもたらす影響について解説し、疾病を予防したり健康を延伸したりする取組について討論を行う。            （2 田原康玄／1回）フレイルやそのリスク因子についての講義を踏まえ、フレイルを予防するための介入方法や施策等について討論する。            （24 長谷川敏彦／1回）医療マネジメント学から見た静岡県の現状を講義する。            （4 菅原照／1回）静岡県の医療体制について現状と課題を講義する。            （11 山本精一郎／1回）がん予防やがん検診のエビデンス、および普及における問題点を講義し、効果的な普及について討論を行う。</p>	オムニバス 講義20時間 演習10時間
	公衆衛生危機管理論	<p>地震や台風等の自然災害、食中毒や新型インフルエンザ等の感染症など、公衆衛生を取り巻く危機管理への適切なアプローチについて事例検討を交えた講義を行い、危機管理パス（計画書）の試案を作成し討論する。            （オムニバス方式・共同（一部）／全15回）            （7 小島原典子／8回）概論及び感染症の健康危機管理を中心に講義を行う。            ① 天笠 崇／2回）虐待、精神疾患に関する講義を行う。            （25 谷 晃／3回）自然災害や大気汚染に関する講義を行う。            （7 小島原典子、6 天笠 崇、② 溝田友里／2回）（共同）リスクコミュニケーションに留意して作成した危機管理パスを用いて演習を行う。</p>	オムニバス 共同（一部） 講義24時間 演習6時間
	基礎医学講座	<p>医療系学部以外を卒業した学生が、公衆衛生に関わるために不可欠な医学に関する基礎知識について講義を行う。            （オムニバス方式／全8回）            （8 森潔／4回）身体の仕組み、薬理学、免疫学等の基礎知識に関する講義を行う。            （4 菅原照／4回）人体の構造と機能、病理学、内科学の基礎知識に関する講義を行う。</p>	オムニバス
	高齢者ケア概論	<p>超高齢化社会を迎える日本において、高齢者の生活支援は喫緊の課題であるとともに、大きな役割を担う家族介護者の健康問題も看過できないため、個人差が大きく、慢性疾患併存が特徴の高齢者の健康と、長寿をとりまく現状や課題などについて講義する。            （オムニバス方式／全8回）            （13 森 寛子／6回）高齢者ケアの自助・互助・共助に関する講義を行う。            （9 栗山長門／1回）介護保険制度、高齢者の疾患に関する講義を行う。            （26 小林美亜／1回）認知症に関する講義を行う。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	公的統計活用法	国の行政機関・地方公共団体などが作成した公的統計を、社会健康医学研究に活用できるように、公的統計の概要、公的統計の利用及び二次利用の方法と活用例について講義するとともに、公的統計を利用した研究論文を用いて演習を行う。	講義12時間 演習4時間
	文献検索法・文献評価法	社会健康医学領域において、基本的なスキルの1つである文献検索の方法と、疫学、EBM（根拠に基づく医療）の知識をもとに、各種の健康・医療情報を検索し、批判的に吟味し、主体的に活用する方法について解説するとともに、実際の文献を用いた演習を行い理解を深める。	講義10時間 演習6時間
	プレゼンテーション・ライティングスキル	研究成果の発表や研究資金獲得のためのプレゼンテーション、学術論文、報告書の執筆に当たっての効果的な技法について講義を行うとともに、演習形式でプレゼンテーションを行いスキルの獲得を指導する。 （オムニバス方式／全8回） （18 藤本修平／6回）論文やスライド作成のコツ、プレゼンテーションスキルに関する講義を行うとともに、プレゼンテーションを通じてスキルの指導を行う。 （20 佐々木八十子／2回）英文科学論文の基本的スタイルや投稿雑誌の規定に関する講義を行う。	オムニバス 講義14時間 演習2時間
公衆衛生学 疫学領域	疫学概論	人間集団を対象とする疫学研究の意義を学ぶとともに、自分の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。後半からは実際の論文を読んで批判的吟味のポイントについて解説を行う。 （オムニバス方式／全8回） （7 小島原典子、① 佐藤康仁／4回）（共同）臨床上、または公衆衛生上の疑問を構造化し、研究の基本設計図を作成するために必要な理論や基本的知識について講義を行う。 （7 小島原典子／4回）疫学論文を読んで研究デザイン別に批判的吟味のポイントについて解説を行う。	オムニバス 共同（一部）
	疫学研究・臨床研究特論	リサーチクエスチョンの設定から研究仮説の立案、研究デザインの構築、データの収集、データ解析、学術的な結果の解釈まで、疫学研究・臨床研究の方法と技術について演習を通じて指導する。	
	臨床研究概論	臨床研究を行うために必要な、研究デザイン、主要評価項目、対象者の選出方法、研究倫理、医療統計学など基本的な医学研究方法論について講義を行う。 （オムニバス方式／全8回） （7 小島原典子／4回）臨床研究に必要な医学研究デザイン及びCONSORT、STORBEを用いた研究結果の公表について講義を行う。 （① 佐藤康仁／4回）臨床研究に必要な統計の理論や特性、及び各統計手法について、解説し、講義を行う。	オムニバス
	疫学・ゲノム疫学特論	我が国の代表的なコホート・ゲノムコホートを実例に、疫学・ゲノム疫学研究の方法論について実践的に解説する。 （オムニバス方式／全8回） （2 田原康玄／4回）ながはまコホートを例に、多因子疾患を中心として研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法について解説する。国内の主要なコホートから研究者を招き、コホート毎に異なるデータ集取や研究の戦略・方針について解説する。 （9 栗山長門／2回）我が国における多施設共同コホート研究を例に、研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法、共同研究の立案・運営方法について解説する。 （10 木下和生／1回）コホートでの検体集取・管理、ゲノム解析、データベース化、データ管理について解説する。 （27 寺尾知可史／1回）比較的低頻度な疾患のゲノムコホート研究について、研究テーマの設定、テーマに応じたデータ集取や解析方法、結果の解釈方法について解説する。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生学 医療統計学領域	医療統計学概論	人を対象とした臨床、疫学研究では、個体差に伴う不確実性が付きまとい、統計的方法が科学の議論のためにしばしば重要な役割を果たす。医学研究の計画及びデータ解析を行う上で必要となる、医療統計学の基本的考え方（統計的仮説検定、信頼区間、最尤推定など）について講義を行うとともに、数理・確立計算に関する演習を行う。 なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） （17 中谷英仁／8回） 統計学全般に関する講義を行う。 （17 中谷英仁、22 佐藤洋子／7回）（共同） 数理・確率計算に関する演習を行う。	オムニバス 共同（一部） 講義16時間 演習14時間
	医療統計学特論	実際の医学研究においては、複数の変数を対象にそれらの関連等を検討するため、具体的な研究事例を基に、統計的な概念・考え方がどのように拡張・適用されているかについて講義するとともに、統計解析用ソフトウェアを用いた演習も併せて行う。 なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。 （オムニバス方式・共同（一部）／全15回） （17 中谷英仁／11回） 回帰分析、生存時間解析、経時測定データ解析に関する講義を行う。 （17 中谷英仁、22 佐藤洋子／4回）（共同） 回帰分析、生存時間解析、経時測定データ解析に関する演習を行う。	オムニバス 共同（一部） 講義22時間 演習8時間
	臨床試験解析学	臨床試験における実施の流れ、ランダム化の意義、試験デザイン、サンプルサイズ計算の方法、中間解析、データ管理及びモニタリング等について講義、演習を行う。 なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。 （オムニバス方式・共同（一部）／全8回） （17 中谷英仁／6回） 臨床試験の統計関連部分に関する講義を行う。 （17 中谷英仁、22 佐藤洋子／2回）（共同） サンプルサイズ計算に関する演習を行う。	オムニバス 共同（一部） 講義12時間 演習4時間
	観察研究解析学	臨床・疫学研究にて、臨床試験のような実験研究が行えない場合に、諸種の観察研究が実施されているが、観察研究デザイン特有の問題への対処（統計的モニタリング、感度分析）が必要な場合が多いため、観察研究の解析（研究）デザイン、統計解析の方法について講義、演習を行う。 なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。 （オムニバス方式・共同（一部）／全8回） （17 中谷英仁／4回） 観察研究解析学全般に関する講義を行う。 （17 中谷英仁、22 佐藤洋子／4回）（共同） ロジスティック回帰モデル、傾向スコアによる調整、Cox回帰モデル、混合効果モデルの解析演習を行う。	オムニバス 共同（一部） 講義8時間 演習8時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生学 科目	環境健康科学領域	環境健康科学・産業衛生学概論 自然環境や社会環境といった環境と健康に関する科学の到達点、特に職場環境と労働者の健康の保持・増進に関する産業衛生学の過去と現在について学び、持続可能な開発目標（SDGs）という未来に向け社会健康医学の専門家に今求められる基礎知識について講義を行う。  (オムニバス方式/全15回) (1) 天笠崇/12回) 社会環境と健康、産業衛生学（労働衛生管理、職業性疾病予防、メンタルヘルス対策等）について講義を行う。 (28 谷幸則/3回) 環境汚染と健康影響、わが国の代表的な公害等、環境健康科学について講義を行う。	オムニバス
		環境健康科学・産業衛生学特論 環境健康科学・産業衛生学概論で学んだ内容を基に、具体的な有害物質の影響と対策、労働環境の改善の手法等について演習を行う。 (オムニバス方式/全8回) (1) 天笠 崇/5回) 本科目のオリエンテーション、ストレスチェック制度の応用と職場巡視を通じた職場環境改善方法について講義、演習を行う。 (29 雨谷敬史/3回) リスク・アナリシス、具体的な有害物の影響と対策、県における疾病予防対策の方法に関する内容について講義を行う。	オムニバス 講義8時間 演習8時間
		生活習慣病（生活習慣・遺伝子・環境） 食事、運動、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣により発症、進行する生活習慣病の概要と疫学的知見、予防のための取組について講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (5 白井 健/2回) 肥満、腸内細菌と生活習慣病との関係に関する講義を行う。 (4 菅原 照/2回) 高血圧、糖尿病、脂質異常における生活習慣、遺伝子、環境との関係に関する講義を行う。 (8 森 潔/2回) 腎疾患と生活習慣との関係に関する講義を行う。 (2) 溝田友里/2回) 特定健診、特定保健指導による生活習慣の改善支援に関する講義を行う。	オムニバス
	行動医科学・ヘルスコミュニケーション領域	健康情報学 疫学やEBM（根拠に基づく医療）を基本として、医学文献からマスメディア、インターネットによる健康情報まで、様々な情報の特徴を知り、それらを主体的、効果的に活用する方法について講義、演習を行う。 (オムニバス方式/全8回) (11 山本精一郎/6回) 健康情報の評価、様々な情報の特徴について講義を行うとともに、具体的な事例を用いた演習を通じ効果的な健康情報の提供方法を指導する。 (23 中山健夫/1回) 診療ガイドラインについて講義を行う。 (2) 溝田友里/1回) 厚労省の情報提供について講義を行う。	オムニバス 講義8時間 演習8時間
		ヘルスコミュニケーション概論 健康増進と疾病予防に関する情報伝達を効果的に行うためのコミュニケーション手法の基礎について講義を行う。特に対象の調査・分析に基づく適切なヘルスコミュニケーション戦略に関する理解を深める。	
		ヘルスコミュニケーション特論 ヘルスコミュニケーション概論で学んだ内容をもとに、ヘルスコミュニケーション手法やナッジ、ソーシャルマーケティングなど様々な行動科学理論を用いた、健康の維持増進のための研究や実践例について、講義、演習を行う。	講義12時間 演習4時間
		行動医科学 行動科学理論に基づき人間の行動を科学的に理解し、健康増進への行動変容を促すための基本知識について講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (1) 天笠 崇/4回) 行動の生物・心理・社会的理解について、特に認知行動療法や社会生活技能訓練（SST）と健康増進への応用の実際について講義を行う。 (11 山本精一郎/4回) 健康行動理論モデルを用いて人間の行動を科学的に理解するための基本的知識及び行動変容を促す具体的な方法について講義を行う。	オムニバス
	健康医療社会学 健康医療社会学は、現代の生老病死という医療抜きでは成立しにくい社会現象を扱う学問である。本科目では、病気の社会的側面、医師-患者関係、インフォーマルケア、健康と格差等のテーマについて、病気行動、ラベリング、医療化といった健康医療社会学の理論を踏まえて講義するとともに、具体的な課題について討論を行う。	講義28時間 演習2時間	



科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生学 健康管理・政策学領域	健康・医療ビッグデータ概論	健診データや診療情報、介護認定データなど、医療や介護を取り巻くビッグデータの解析手法と活用方法の基本的考え方について講義を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (9 栗山長門／1回) 医療ビッグデータの特性、今後の展望、活用について講義を行う。 (30 山本博之／1回) 医療・健康系管理データについて講義を行う。 (9 栗山長門、31 一原直昭／2回) (共同) 臨床レジストリ、健康・医療ビッグデータに必要な配慮について講義を行う。 (32 平原憲道／1回) IoTのもたらすビッグデータについて講義を行う。 (33 隈丸 拓／2回) 健康・医療ビッグデータによる疾病と医療提供状況の把握、ビッグデータ研究のプロトコル作成について講義を行う。 (9 栗山長門、34 宮田裕章／1回) (共同) 近未来のビッグデータの方向性について講義を行う。	オムニバス 共同(一部)
	健康・医療ビッグデータ特論	医療政策の立案において、根拠や手がかりもないまま実験的に政策がなされる場合があるが、既存データを利用した政策決定や問題解決に向け、データ駆動型疫学に関する講義を行う。また、データ駆動型の課題設定及びデータの集計・解釈を行う上で必要となる技術の習得を目指し、健康・医療ビッグデータを用いた演習を行う。なお講義については中谷、演習は中谷・佐藤のオムニバス・共同方式にて授業を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (17 中谷英仁／1回) データ駆動型疫学に関する講義を行う。 (17 中谷英仁、22 佐藤洋子／7回) (共同) 健康・医療ビッグデータに関する実務演習を行う。	オムニバス 共同(一部) 講義2時間 演習14時間
	健康政策・医療経済学概論	公的医療保険制度など健康に関するわが国の制度や政策を概観しつつ、今後、持続可能な制度として確立するための具体的な政策展開について、ミクロ経済学等の知識も活用して講義を行う。 (オムニバス方式／全8回) (9 栗山長門／4回) 健康政策、地域医療、疾病対策、高齢者医療について講義を行う。 (35 後藤 励／4回) 健康政策に対する医療経済学的な視点について講義を行う。	オムニバス
	健康政策・医療経済学特論	健康政策・医療経済学概論で学んだ内容を基に、社会保障制度の将来予測を行いつつ、健康政策上重要な各テーマ別に、具体的な政策提言のあり方について講義する。 (オムニバス方式／全8回) (9 栗山長門／5回) 健康政策における予防医学、医療提供体制の実際や考え方について講義を行う。 (35 後藤 励／3回) 健康政策及び医療政策の経済学的な分析について講義を行う。	オムニバス
	社会健康医学倫理概論	社会健康医学領域の研究活動や臨床場面での倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を身に付けるため、倫理的課題の性質、研究における倫理的配慮について講義を行う。 (オムニバス方式・共同(一部)／全8回) (21 八田太一／4回) 臨床研究における倫理的配慮としてインフォームドコンセントの重要性や医療倫理と法の関係性について講義し、実際の倫理審査過程の見学を行う。 (21 八田太一、36 藤田みさお／3回) (共同) 社会健康医学の研究及び臨床における倫理について、事例を用いて講義を行う。 (12 山崎浩司／1回) 終末期医療に関する講義を行う。	オムニバス 共同(一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生学 健康管理・政策学領域	社会健康医学倫理特論	社会健康医学倫理特論では、倫理的・法的・社会的課題（ELSI: Ethical Legal Social Issues）に焦点を当てその問題の構造を俯瞰する、または、医療現場で生じるELSIに方策を見出すための支援や仕掛けを紹介するとともに、各トピックスについて議論する。 （オムニバス方式・共同（一部）／全8回） （21 八田太一／4回）再生医療に係る倫理的課題、インターネットにおける医療情報や学術出版に関する問題点、医療現場における多職種連携、これらの調査研究や事例を提示し議論する。 （21 八田太一、36 藤田みさお／2回）（共同）臓器移植の背景や事例研究をもとにその問題を議論するとともに、研究不正に関するロールプレイを通して臨床場面との相違を議論する。 （12 山崎浩司／2回）健康格差などグローバルな健康問題における研究の状況と、社会的・倫理的課題について議論する。	オムニバス 共同（一部）
ゲノム医学 ゲノム医学領域	医科遺伝学概論	医科遺伝学に関する基本的な知識を修得することを目的に、遺伝子の構造と機能、細胞遺伝と染色体異常、メンデル遺伝と非メンデル遺伝、腫瘍遺伝、集団遺伝について系統的に講義する。 （オムニバス方式／全8回） （5 白井 健／2回）医科遺伝学の基礎、単一遺伝子疾患について解説する。 （10 木下和生／2回）医科遺伝学の基礎、がんゲノムについて解説する。 （27 寺尾知可史／2回）遺伝子変異・多型、染色体異常と臨床形質について解説する。 （2 田原康玄／2回）多因子疾患のゲノム解析、集団遺伝について解説する。	オムニバス
	医科遺伝学特論	様々な疾患を実例に、臨床・予防医学・医療における遺伝学の意義について講義する。また、疾患の遺伝的背景について、環境因子との係わり、原因遺伝子を探索・同定するためのアプローチについて講義する。 （オムニバス方式／全8回） （2 田原康玄／2回）生活習慣病を中心に多因子疾患のゲノム解析について解説する。 （10 木下和生／2回）がんのゲノム解析について解説する。 （27 寺尾知可史／2回）自己免疫疾患のゲノム解析について解説する。 （5 白井 健／2回）小児内分泌遺伝性疾患のゲノム解析について解説する。	オムニバス
	遺伝カウンセリング	主要な遺伝性疾患の病態や、遺伝的問題の把握、それらの疾患に関わる遺伝カウンセリングの基本的な考え方や留意点について講義を行う。	
	遺伝カウンセリング実習	遺伝カウンセリングで学んだ内容を基に、遺伝カウンセリングの現場に同席し、その現状を体験するとともに、予診の聴取、家系図の作成、電話フォローアップなどについて実習を行う。	
	ゲノム医学（疾患と遺伝子）	医科遺伝学概論及び医科遺伝学特論で学んだ内容を基に、代表的な遺伝性疾患及び具体的な遺伝診療現場における課題とその解決手法について講義を行う。 （オムニバス方式／全8回） （5 白井 健／4回）内分泌疾患やホルモン受容体異常症等に関して解説し、講義を行う。 （8 森 潔／4回）ファブリー病や多発性嚢胞腎等に関して解説し、講義を行う。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目	フィールド実習	医療機関や公衆衛生機関における疾病予防対策、健康増進施策の実態と課題、県内のゲノムコホート研究の具体的研究内容やその成果について実習を行う。 (実習/全30時間) (7 小島原典子/2時間) 疾病予防対策、健康増進施策について概説し、実習目的について説明する。 (2 田原康玄/2時間) 疾病予防・健康増進に対するゲノムコホート研究の意義・役割について講義を行う。 (13 森寛子/26時間) 実習の引率及び現場での調整を行う。	オムニバス
	死生学	現代社会の人の生き死ににまつわる多様な課題を扱う死生学について、臨床死生学を中心に解説する。また、地域における看取りと死別と支えあいについて講義を行う。	
	社会健康医学における質的研究法	人の持つ価値観や行動原理、所属集団の行動規範などを理解するために有用なアプローチである質的研究方法について講義する。量的研究との違い、個人インタビューその他のデータ収集法、データの収集と分析を通じてデータに根ざした理論の生成を目指すグラウンデッド・セオリー・アプローチなどについて解説するとともに、演習を通して体験的理解を促す。 (オムニバス方式・共同(一部)/全8回) (12 山崎浩司/3回) 質的研究の特性や分析方法について講義を行う。 (13 森 寛子/3回) データ収集方法やインタビューの方法について講義を行う。 (12 山崎浩司、13 森 寛子/2回) (共同) 質的研究に関する実務演習を行う。	オムニバス共同(一部) 講義12時間 演習4時間
	社会健康医学における混合研究法	混合研究法(Mixed Methods Research)は、質的アプローチと量的アプローチを統合させる研究方法論であり、単一の研究の中で質と量の2つのアプローチを採用し統合を試みた研究は混合型研究と呼ばれる。本科目では、混合研究法を学ぶ際に最初の関門である「統合」の概念について講義を行うとともに、具体的な研究計画を用いて討論し、研究手法として使いこなす手がかりを指導する。	講義14時間 演習2時間
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論	県内における精神疾患予防対策、精神健康増進施策の立案に当たり、実際に県民に行動を喚起させる手法について、特に認知行動療法や社会生活技能訓練(SST)の適用方法について講義及び演習を行う。	講義14時間 演習2時間
	医療・ケア組織論	医療や介護等の現場において、疾病予防対策や健康増進施策を継続的かつ効果的に展開するための組織のあり方等について講義を行う。 (オムニバス方式/全8回) (☐ 天笠 崇/5回) 健康増進組織について、特に健康職場・健康増進活動拠点病院(HPH)・コプロダクションに関して講義を行う。 (20 佐々木八十子/3回) 医療組織文化の調査事例をもとに、組織文化・診断・変革のプロセスに関して講義を行う。	オムニバス
	高齢者ケア特論	高齢者ケア概論で学んだ内容を基に、要介護高齢者の原因疾患による特異性に注目した介護の現状課題の把握、検討について講義する。 (オムニバス方式/全8回) (13 森 寛子/6回) 高齢者介護の多様な状況の課題に関する講義を行う。 (26 小林美亜/2回) 高齢者の健康と認知症に関する講義を行う。	オムニバス
	高齢者運動・リハビリテーション論	高齢者の疾病・介護予防、機能回復を目指したリハビリテーションについて、臨床・地域・ヘルスケア業界・ヘルステック領域(ヘルステクノロジー)などの切り口から、どのような視点を大事にして各主体が展開しているか、また介護予防・健康増進施策に至る重要な手続きなどについて講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発展科目	聴覚コミュニケーション学概論	人間の音声言語はコミュニケーション手段として主要な手段であるが、音声言語獲得には聴覚が必須であることを講義する。 (オムニバス方式/全8回) (3 高木明/4回) 人間にとってのコミュニケーション重要性を考え、特に音声言語獲得のためには聴覚が必須であること、新生児聴覚スクリーニングの重要性について解説する。 (2) ホロウェル/4回) 音声言語の多様性、成り立ち、習得について解説する。	オムニバス
	聴覚コミュニケーション学特論	音、音声の物理学と人間の耳の構造・機能、さらに中枢での理解、認知のメカニズムについて講義する。 (オムニバス方式/全8回) (3 高木 明/5回) 耳の構造と機能について実際の側頭骨標本を用いて講義を深め、特に蝸牛の精妙な構造、聴神経の遠心路の役割、音の物理学について、空気の振動の伝わり方、物理表現の仕方(単位)を解説する。 (37 田中智英巳/3回) 人間の聴覚の評価法とその測定法を知り、物理的単位との関係を理解する。具体的に高齢難聴者の聴力測定を行い、評価、考察を行う。	オムニバス
	小児聴覚評価法	小児の聴覚閾値は行動観察によるもの、電気生理学的検査などがあるが、言語聴取(弁別)と音の閾値の関連などについて講義を行うとともに、小児聴力検査について演習を行い実践的な理解を促す。 (オムニバス方式/全8回) (3 高木 明/3回) 小児の聴力の評価法の種類、原理、適応について講義を行う。 (37 田中智英巳/5回) 他覚的聴力検査、特に脳波による測定について講義、演習を行う。	オムニバス 講義10時間 演習6時間
	脳の発達と聴覚	乳幼児の聴覚野の発達をfNIRS(近赤外脳機能計測法)などを用いて、客観的に捉える方法を確立し、難聴児の聴覚野をスムーズに発達させるための介入法を探索する。また、視覚刺激と言語野の関連を研究し、その結果を講義する。 (オムニバス方式/全8回) (3 高木明/4回) 音声言語の認識のための中枢の所在と相互関係について講義を行う。 (19 フェヘルヴァーリ/4回) 音声言語認識のための脳の活動を可視化し、中枢各部位の相互の関連性を明らかにする手法を論じて、その具体的事例を呈示しながら、講義を行う。また、データの解釈に当たっての留意点について講義する。	オムニバス
	小児難聴マネジメント	乳幼児の難聴が判明すれば、補聴器装用を開始し、その効果が乏しければ人工内耳を考慮する。人工内耳適応がない場合、視覚情報によるコミュニケーション手段を考える。いずれも発達に応じた評価と介入法について講義する。 (オムニバス方式/全8回) (3 高木明/6回) 補聴器、人工内耳について解説する。小児においては補装具装用後の母子関係が聴覚の発達に大切であることを講義する。 (37 田中智英巳/2回) 補聴器の適合の手順、評価などについて講義する。	オムニバス
	老年オーディオロジー	日本と世界の高齢化社会の現状、加齢に伴う聴覚システムの変化、難聴と認知症について講義するとともに、補聴器やその他の補聴機器による難聴マネジメントについて演習を行う。	講義10時間 演習6時間

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別 研究	修士論文	<p>(概要) これまでの業務上の経験、講義・演習やフィールド実習等で得た気付き、各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、修士論文の作成を行う。</p> <p>(2 田原 康玄) 生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(3 高木 明) 新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(4 菅原 照) 慢性腎臓病 (CKD) などの生活習慣病の早期発見、早期診断、早期治療介入の推進が日本人の健康問題の予防と健康寿命の延長に関連することについての研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(5 臼井 健) 精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(① 天笠 崇) 労働ストレス要因と精神疾患、職場のメンタルヘルス対策、社会生活技能訓練を初めとした心理社会的支援による精神健康の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(7 小島原 典子) ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいと与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステムティックレビューや疫学研究を指導し、論文作成を支援する。</p> <p>(8 森 潔) 高齢者の健康長寿延伸を目的とした、腎疾患の投薬内容、医療費、疾病重症化リスクに関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(9 栗山 長門) 長寿・認知症・がんを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(10 木下 和生) 抗体遺伝子やがん関連遺伝子の変化を惹起する酵素AIDの遺伝子多型と、アレルギー免疫疾患および悪性腫瘍の発症頻度との関連を調査する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(11 山本 精一郎) がん患者の健康増進や予後改善に繋がる生活習慣・心理社会的要因等を明らかにするための、がん患者コホート研究におけるデータ解析について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(12 山崎 浩司) 死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(13 森 寛子) 在宅介護者のQOL、質的研究法による少数集団の体験・価値観の探索に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	修士論文	<p>(① 佐藤 康仁) 生活環境における物理的因子、化学的因子、生物学的因子、気象因子、地理的因子等と健康に関する統計解析を用いた疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(② 溝田 友里) 行動科学やナッジ、ソーシャルマーケティング等を活用した、健康に関する行動変容(身体活動、食事、禁煙、がん検診受診、特定健診受診受診、検査受検等)を促すための研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(17 中谷 英仁) 医薬に関する介入、観察研究の統計学的手法及び解析、疾患の発症・悪化及び死亡に関する予測因子探索及び予測モデル構築に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(18 藤本 修平) リハビリテーション領域の介入研究・大規模データ分析、リハ職種の診療ガイドライン活用・Evidence-based practiceに関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(20 佐々木八十子) 医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(21 八田 太一) 混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(22 佐藤 洋子) 観察研究における統計学的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロファイル解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p>	
	課題研究	<p>(概要) これまでの業務上の経験、講義・演習やフィールド実習等で得た気付き、各人の関心に基づいて、解決すべき保健・医療上の課題を設定し、研究計画書を作成する。そして、研究計画書を踏まえたデータの収集、調査と分析を進め、その結果について、課題研究報告書の作成を行う。</p> <p>(2 田原 康玄) 生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(3 高木 明) 新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(4 菅原 照) 慢性腎臓病(CKD)などの生活習慣病の早期発見、早期診断、早期治療介入の推進が日本人の健康問題の予防と健康寿命の延長に関連することについての研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(5 白井 健) 精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>☐ 天竺 崇) 労働ストレス要因と精神疾患、職場のメンタルヘルス対策、社会生活技能訓練を初めとした心理社会的支援による精神健康の改善に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
特別研究	課題研究	<p>(7 小島原 典子) ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいと与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステマティックレビューや疫学研究を指導し、報告書作成を支援する。</p> <p>(8 森 潔) 高齢者の健康長寿延伸を目的とした、腎疾患の投薬内容、医療費、疾病重症化リスクに関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(9 栗山 長門) 長寿・認知症・がんを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題を中心に、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(10 木下 和生) 抗体遺伝子やがん関連遺伝子の変化を惹起する酵素AIDの遺伝子多型と、アレルギー免疫疾患および悪性腫瘍の発症頻度との関連を調査する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(11 山本 精一郎) がん患者の健康増進や予後改善に繋がる生活習慣・心理社会的要因等を明らかにするための、がん患者コホート研究におけるデータ解析について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(12 山崎 浩司) 死別体験者のグリーフに対する健康増進的支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(13 森 寛子) 在宅介護者のQOL、質的研究法による少数集団の体験・価値観の探索に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(① 佐藤 康仁) 生活環境における物理的因子、化学的因子、生物学的因子、気象因子、地理的因子等と健康に関する統計解析を用いた疫学研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(② 溝田 友里) 行動科学やナッジ、ソーシャルマーケティング等を活用した、健康に関する行動変容（身体活動、食事、禁煙、がん検診受診、特定健診受診受診、検査受検等）を促すための研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(17 中谷 英仁) 医薬に関する介入、観察研究の統計学的手法及び解析、疾患の発症・悪化及び死亡に関する予測因子探索及び予測モデル構築に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(18 藤本 修平) リハビリテーション領域の介入研究・大規模データ分析、リハ職種の診療ガイドライン活用・Evidence-based practiceに関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(20 佐々木八十子) 医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(21 八田 太一) 混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(22 佐藤 洋子) 観察研究における統計学的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロファイル解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、報告書作成の研究プロセスを指導する。</p>	